

東日本大震災 被災地支援日記

京都大学 松村謙臣

3/18(金)

17時に京大病院内で被災地支援に関する緊急カンファレンス。日産婦学会の要請に従って、2名の派遣をすることを決定した。

3/19(土)

朝、早速小西教授より電話あり。「3/26 から一週間行ってもらえないか」と。さらにもう一人選んでほしい、とのこと。条件として、万一の場合の補償の点から、大学院生ではなく、助教。さらに、治安がどうであるか分からないので男。その条件に合うのは、佐藤、松村、馬場、近藤、濱西の5名。佐藤は IVF 担当であり、その代わりが現在はいないので不可。松村が婦人科病棟医長であるため、副病棟医長である馬場は不可。産科病棟医長の角井がその週休みであり、副病棟医長の近藤は無理であろう。ということで、必然的に濱西しかいない。急遽大学に行き、産科病棟を訪れる。濱西君に会い、その場で一緒に行く事を頼んで快諾してもらった。

行き先は石巻赤十字病院。宮城県石巻市は津波で壊滅的な被害を受けた地域である。まわりの病院、診療所が診療出来ない中で、孤軍奮闘がんばっているが、患者が集中しすぎてスタッフが疲弊しているとのこと。産婦人科はまず東北大学が応援に行き、その次は昭和大学が3/19から3/26まで応援に行っている。早速、昭和大学の松岡先生にメールをして現地の情報を得る。行くルートとしては、伊丹空港から山形空港まで飛行機で行き、仙台まではバス、仙台から石巻まではタクシーが良さそう。行きの飛行機の予約は取れたが、帰りは取れず、後で予約の必要なオープンチケットとなる。

3/26(土)

朝 6時20分自宅を出て嫁の運転で京都駅へ。1週間分の食事と着替えが入っているため、いつもの出張より荷物がずいぶん多い。朝7時5分発のバスに乗って伊丹空港へ。バスの中で濱西と合流。運賃1280円。伊丹空港でおにぎりとお茶を買って朝食。530円。伊丹空港8時40分発山形行きのJAL2231便に乗

る。「山形では雪が降っているため、山形空港に着陸できない場合は大阪に戻ってくる」という条件付き運航であったが、無事に山形空港に到着。

山形空港で荷物を受け取って、すぐ前に出口があり、そこからすぐわかる場所に「山形空港ライナー」の乗り場あり。山形空港ライナーとは、空港から山形駅までの空港リムジンバス。ウェブサイト上は、「予約が必要」と書いてあるが、電話してみると「予約不要」と言われ、この日も全く問題なく乗せてくれた。飛行機が空港に到着する予定が 9 時 55 分で、山形空港ライナーが 10 時 10 分発と書いてあるため、間に合わないのでは、と心配していたが、実際は厳密に出発時間を守って出発するのではなく、JAL2231 便の乗客が乗るのを待って、その人の流れがおさまってから出発するため、遅れる心配はない。30 分後山形駅着。雪がところどころ積もっているが、道路状況は問題なし。運賃 1200 円。

山形駅で山形から仙台までの高速バスに乗る。バス停は山形空港ライナーをおりた所のすぐ近くで分かりやすい場所にある。待ち時間は短く、すぐにバスが来た。運賃は往復分(2回乗車分)の回数券が 1600 円。仙台駅前に 12 時頃到着。仙台には雪なし。駅周りを少し歩いて、商店街に入る。仙台駅周辺はあまり建物に被害がある様子はなく、普通に開いている店が多い。飲食店は半分くらい閉まっているが、開いている店は元気よく呼び込みをしている。そのうちの一つに入って注文。松村は海鮮丼定食 1000 円、濱西は鳥照り焼き丼定食 800 円。普通においしく頂いた。大きな荷物を持っているため被災地支援と分かったようで、「石巻まで行く」と行ったところ、「一番大変なところでどうもありがとうございます」と店員さんにとってもありがたがられた。

仙台駅の近くではたくさん客待ちのタクシーが停まっており、その一台に乗った。途中で 3 キロ以上はあろうかという、ガソリンを入れる為の長い列を何度も見た。タクシーは LP ガスで動くので、ガソリン不足は関係がない。割に自動車は走っていたが、ガソリンがなくなれば、あのとてつもない列に並ばなければならなくなるので、こちらが心配になる。石巻に近づくにつれ、道路の周囲にがれきの山があらわれ、道路の脇は泥だらけとなり、自動車に変なところに乗り上げたり、まだ海水が引いていなかったりという風景があらわれる。津波が押し寄せた場所ではほぼどの店も営業できていない。対照的に、津波が届いていない場所では建物は無事で店が開いており、津波が届いたかがきわめて分かりやすい。病院のすぐ近くに被害がない地域があり、ラーメン屋が開いていた。14 時 30 分頃、石巻赤十字病院着。運賃 15290 円。

石巻赤十字病院で昭和大学の松岡先生、宮上先生から申し送りを受ける。病院内は暖房が入っており暖かい。待合室には患者さんがいるが、ものすごく混雑しているというほどではない。だいぶん落ち着いてきているとのこと。泌尿器科外来奥の処置室に荷物を置く。昭和大学チームが持参したカップラーメンなどの食料が余っており、我々が持ってきたものと併せると十分にある。瞬間湯沸かし器や毛布も置いていってくれる。電子レンジは2階の医局に置いてある。携帯電話は普通につながる。FOMAのL-05A端末を使って、インターネットに接続もできた。

石巻赤十字病院は平成18年5月に現在のところに移転新築した。地震の際、病院のあたりは震度6の揺れであったらしいが、免震構造のため、院内はあまり揺れず。医療機器やコンピューターは全くダメージなし。机の上に立ててある本等も倒れず。雑然と貼ってあるメモ用紙の類いもそのまま。図書室の本も一冊も落ちず。上の階で掛け時計が外れたところがあったくらい。病院の周囲を見ると、病院と周りの地面の間に亀裂が入っていて、決して小さな地震でなかったことがわかる。地震の時に院外から石巻赤十字病院を見ると、明らかに周りとは違う動きをしていることがわかるらしい。地震の直後、まわりが停電で真っ暗な中、石巻赤十字病院だけが自家発電の為に明るく、被災者がその明かりを頼りに訪れた。直後はタンクに貯めてあった水を使用した。水道が復旧するまでは何度も給水車に給水してもらった。まだガスが復旧していないが、手術器具の滅菌や病院給食の調理にはどうしてもガスが必要とのこと、ガス発生器を駐車場の端に置いて対処している。ライフラインを確保し、病院の建物、医療機器が全く大丈夫であったため、現在フル稼働してこの地域の医療にあたっている。現在は水道あり、電気あるが、ガスが制限されており、シャワーはお湯がでない。

病棟に行くと、分娩停止の妊婦がおり、今から帝王切開するとのこと。一方、他にも分娩進行中の妊婦がいる。常勤医師は堀内先生、長谷川先生、芳賀先生、さらに本日休みの千坂先生。芳賀先生は昨年10月まで石巻赤十字病院で勤務されていたが、石巻が大変なことになったため、急遽地震の後に常勤医として復帰されたとのこと。また、3/23から3/30まで、武蔵野赤十字病院から応援に来ておられる小林先生。それに我々2人で合計7人体制。分娩数は1日5件程度。年間1500件程度の分娩数。分娩は、もともと石巻赤十字病院に通院していた妊婦：それ以外の妊婦＝1：2くらいの割合であり、3倍に増えている。外来は

通常の予約外来は閉めているが、情報が分からないために来院された方がおり、一定数診ているとのこと。水に濡れた母子手帳を持っておられる方が多い。9割くらいは自宅あるいは親戚の家から来られるが、1割くらいは避難所から来られる。報道にあるように、避難所の環境は劣悪とのこと。

17時過ぎにミーティングが終わり、すぐにホテルへ。石巻赤十字病院前のタクシー乗り場に並んでいるタクシーに乗る。津波の被害のあったところは埃がひどく、タクシーはみな埃まみれとなっている。タクシーで50分くらいかかってホテルに到着。途中でホテルの場所が分からないとのことで、交番で道を尋ねる。運賃8120円。ホテルは松島プチホテルびすとろアパロン。松島は沿岸なのに、津波が1メートルほどにしかならず、被害が少なかったとのこと。その理由として、松島湾には小さな島が点在しており、島が津波のエネルギーを吸収したためらしい。観光資源として大切にされてきた島々であるが、このたびは、津波から町の人々を守ってくれたことになる。

ホテルでチェックイン。断水となっており、水は給水車+ペットボトルのミネラルウォーター。ガス、電気あり。松島は都市ガスが通っておらず、プロパンガスなので、今回のような災害時にもガスが使えるところが多いとのこと。ちなみに石巻市や仙台市は都市ガスなので、復旧に時間がかかる。断水なので、水道の蛇口をひねっても何も出ない。トイレ内にポリバケツがおいてあり、そこに水が入れてあり、トイレを流すために使う。ガスがあるために調理、風呂が可能となり、営業している。インターネットは部屋では不可であるが、ロビーにて可能。食材が手に入りにくいとの事で、「うちの本来の食事ではないのですが・・・」ということであったが、夕食をおいしく頂いた。風呂に入ったところ、温かいシャワーのお湯が出て、浴槽の温かいお湯に浸かって一息ついた。その後、松村だけセカンドコール当直のために病院に戻る。ファーストコールは小林先生。朝食を食べられないため、おにぎりを握って持たせてくれた。濱西はホテルで宿泊。タクシーに乗り、石巻赤十字病院に戻る。高速に乗って、40分程度で着いた。運賃7040円+高速代200円。

病院内は静かだった。待合室には治療を受ける患者さんがちらほら。産婦人科のある3階病棟の自動販売機で500ml入りの水を買って飲んだ。130円。廊下で日赤からの応援として来た人たちが寝ている。とても疲れているのだろう。そばを歩いても熟睡していて起きない。日赤からの応援はだいぶ引き上げて、廊下で寝る人たちの数はずいぶん減ったとのこと。

3/27(日)

朝7時起床。夜は一度も起こされず。泌尿器科外来処置室のベッドはやや固くて寝心地悪かったが、床で寝るよりはずいぶんましであろう。洗面して、水の残りを飲んで、昨夜握ってもらったおにぎりを頂く。業者の方が部屋のゴミを回収に来てくれた。8時にミーティング。今日のシフトを決める。日中は常勤の先生方が通常業務。濱西ファーストコール、松村セカンドコールで救急外来、分娩に対応する。今は応援医師は松村、濱西と小林先生の3名であるが、夕方になると応援医師3名は松島のホテルに行き、夕食と風呂を済ませて、一人はそのまま宿泊、残りの二人が当直のために戻ってくる体制としたいと主張した。すなわち17時から20時の間、応援医師は不在であり、この時間は常勤医で対応して頂く。20時以後は応援医師2人で当直する。朝になれば応援医師3名で働く。小林先生は、こちらに来られてからずっと病院に寝泊まりし、水シャワーのみで寒かったとのこと。今夜は小林先生にホテルで宿泊して頂くことにする。今日はたまたま小林先生のお誕生日とのことで、誕生日プレゼントにもなったか。先にホテルで休んで頂く。東大の矢野哲先生から携帯に電話あり、石巻赤十字病院の状況を知りたいとのこと。タクシー代が高く、その都度現金で支払うので、現金をたくさん準備しておく必要があるが、それも物騒なのでタクシーチケットを学会で準備してもらうように依頼する。

午前中は妊婦7人来院。妊婦検診や切迫流産など。外来が開いているとは通知していないが、病院に電話して「開いている」と聞いて来院した方や、周囲から教えてもらって来院した方など。妊娠41週の陣発入院があったが、陣痛がおさまって帰宅。

昼前に外出。病院の周りを散策。とても寒い。昨日通りがかりに見つけたラーメン屋が営業しているが、食材が不足しているため昼間のみ14時までの営業とのこと。その先のローソンに行くと、「カップラーメン1人2個まで」とのこと。食料品の購入には制限がある。昼前ではあるが棚には食料品がほとんどない。病院の周囲は津波が到達しておらず、建物が無事であるが、ガソリン不足の為に物流はまだ悪い。ここで食事を買って食べる訳にはいかない。病院に戻って、持参してきたパンを食べる。午後妊婦3人が検診の為に来院。妊娠40週で一人陣発入院。

17時に常勤の千坂先生に連絡。20時まで松村、濱西とも不在であることを伝え、ホテルへタクシーで向かう。昨夜高速道路に乗れたことを伝えて、三陸道から

行ってもら。おりる場所が分からないと言われて、ホテルに携帯で電話。「松島」でおりるように言われた。ICの名前が松島北、松島大郷と続いて、松島大郷でおりてみるとのことでおりてみたが、どうも違うとのことで、ちょっと迷いながら到着した。運賃 7100 円。後で調べると松島海岸 IC が一番近い。昨日も本日も石巻から乗るタクシーは、ホテルの場所を知らなかったなので、今後はこちらがしっかり道を覚えて誘導することにする。18 時ホテルのロビーで小林先生と落ち合い、夕食を頂いた。本日は塩シャケ、麻婆豆腐、吸い物、ご飯、たくあん。小林先生は、信州大学にて藤井信吾教授時代の婦人科病棟医長であり、藤井先生のことをよくご存知と聞いて驚いた。小西教授にもよろしくとのこと。世間は狭い。夕食後、松村、濱西はすぐに風呂へ。松島の地域でも、開いているホテルは「松島プチホテルびすとろアバロン」のみとのこと。ウェブサイトを見ると、「12 室しかない松島で一番小さいホテル」とのことであるが、地下水をくみ上げてプロパンガスで風呂を沸かすという方法のため、地震直後の断水でも、営業できている様子。明日から女川原発の復旧作業のため、支援部隊が宿泊するとのこと。この小さなホテルが復興支援のための重要な拠点となっている。タクシー代が高いが、拠点場所、移動手段とも他に選択肢はなく、これはやむを得ない。朝食用のおにぎりを頂き、タクシーで病院に戻る。運賃 8000 円。

病院に到着すると、33 週の妊婦が腹緊にて来院していた。濱西が診察。頸管熟化所見あり入院とした。これまで泌尿器科外来奥の処置室を拠点としていたが、そこは明日以後外来が再開して使えなくなるため、詰め所の隣の家族控え室へ荷物を移動する。この病院は産科当直室を作っていなかったとのこと。以前は自宅 on call であったようであるが、震災後の分娩数からすると、今後、産科当直室は必須であろう。寝る準備をしているところへ、30 週の妊婦が腹痛にて救急車で来院。胃けいれんと診断、ブスコパンで軽快。診察中余震あり。体が揺れるが免震構造のためか揺れながら体が逆に戻されるような感覚がある。巨大地震でも一切物が落下しなかった建物なので、信頼感があり全く怖さが無い。明日から通常外来が再開し、とても忙しくなると思われる。自販機で水を買って飲む。130 円。今晚の当直は濱西ファーストコール、松村セカンドコール。

3/28(月)

夜中に経産婦の分娩があり、濱西が対応。軽度であるが頸管裂傷あり、出血が続く。しかし頸リス鉗子は病院に置いていない。胎盤鉗子および塚原鉗子で頸管を把持して縫合。困ったのは、分娩台が故障しており患者の足を置く補助台が下におりないこと。足の間に入って座って処置することができないため、患者の右側方から腰を曲げてかがみこみ、覗き込むようにして処置。腰が痛くなる。軽度の頸管裂傷であるが、分娩台の不具合の為に大変苦勞して縫合したとのこと。後で分娩台のことを聞くと、3台のうち2台は壊れていて足を置く補助台がおろせず、患者の足の間座ることができない。地震前からその2台の調子は悪く、ATOMに見てもらったが、1台は修理のために部品を取り寄せるのに時間がかかると言われ、もう1台は一応レールを調整してもらって調子悪いながらも何とか足を置く台がおろせたが、地震の後はまたおろせなくなったとのこと。補助台がおろせない不便な分娩台で縫合の難しい、深い膈壁裂傷や頸管裂傷があったら、自分には修復できる自信がない。分娩台を直さずに応援医師を呼びつつ多数の分娩を取り扱う体制は変えた方が良いのではないかと。

朝7時に起きて洗顔し、昨夜ホテルからもらってきたお握り、持参してきたみかんを食べる。8時30分よりミーティング。長谷川先生はノロウイルス感染か、胃腸の調子が悪いとのこと、顔色が悪い。被災地で毎日休まず2週間以上がんばって働いていたため、体調を崩したものと思われる。本日はそのまま休みとしてもらう。堀口先生も本日休み。常勤は千坂先生、芳賀先生の2人、応援医師は小林先生に加えて松村、濱西の3人。日中は小林先生と松村が外来、千坂先生、芳賀先生、濱西が病棟当番とし、昼から低位胎盤の予定帝王切開に千坂先生と濱西が入ることになった。千坂先生より、昨日のように17時から20時まで応援医師が皆抜けて、食事+風呂に行ってしまうのはとても困ること。病院まで歩いて来れる常勤医は千坂先生のみで、他は皆車で通勤している。しかし今は車はガソリン不足なので、簡単に病院との行き来ができない。応援医師のうち一人はホテルでの食事+風呂をなしとして、一人は常に病院にいるようにしてほしい、とのこと。3人の応援医師で、ファーストコールはずっと病院、セカンドコールはホテルで食事+風呂のために3時間抜け、一人はホテルで食事+風呂+宿泊、というローテーションを組むこととする。松村、濱西がいなくなる頃には病院周囲のガソリン、ガス、物流、食事、宿泊事情が改善し、常勤医師、応援医師ともにQOLが改善することを期待したい。院内でのシャワー、病院の近所での食事が欲しい。

朝9時から外来開始。最初の1人は内膜症に対するルナベル処方希望し、さらに風邪薬も希望。その後はすべて妊婦検診。石巻赤十字病院にかかっていた妊婦は2割ほどで、その他が8割。避難所から来た妊婦は、松村の側は1人だけ。家が流されても、兄弟や親戚の家に身を寄せている人が多い。夫の安否が不明という人もいた。12時過ぎに休みを取って、応援医師の宿泊室としている「家族控え室」でお昼ご飯とする。持参してきたアンパンと、カップラーメン、コーヒー。お湯は瞬間湯沸かし器で沸かす。

13時から外来再開。午後の患者数は少なめ。14時過ぎに芳賀先生からPHSが鳴る。ちょうど千坂先生と、濱西は帝王切開の手術中。分娩が2件重なっていて、1件は吸引分娩のため、手伝って欲しいとのこと。震災の非常時であっても、この病院では分娩を取る医師は、いつも通りディスプレイの清潔のガウンを着用している。朝9時に全開大し5時間経っている。排臨近くであるが4000g近い予測体重であり、肩甲難産の可能性あり。羊水混濁も著明。微弱陣痛あり。小児科立ち会いで分娩とした。松村はクリステレルに回る。分娩台の補助台がおろせず、足の間に入れないので芳賀先生が右側方から吸引。1回で娩出し、肩甲難産もなかった。児は元気で、3950gとやはり大きかった。よく子宮底輪状マッサージして子宮をほどよく収縮させながら胎盤を娩出した結果、出血は多くない。しかし経過から弛緩出血を防止する必要があり、アトニンO点滴およびパルタンMを筋注。助産師から「ぜいたくな収縮薬の使い方ですわ」と言われ、やはり薬剤が不足気味である事を実感。頸管裂傷の有無、膈壁裂傷の有無をチェック。補助台が邪魔で遠くて見にくいのが、幸い頸管裂傷や、深い膈壁裂傷はなさそう。芳賀先生が縫いにくそうにしつつも、右側方から腰を屈めたり、補助台に座ったりして姿勢を変えながら縫合している。縫合は芳賀先生にお任せして、隣の分娩を見に行く。排臨しかかっているが、もうちょっと時間がかかりそう。帝王切開から濱西が戻ってきて、松村は外来に降りる。患者数は午前午後あわせて50人ほどで地震前よりも少ないとのこと。小林先生と一緒に診たため、忙しくはなかった。1500件相当の分娩数になっているはずであるが、外来数が少ない理由として、石巻赤十字病院は、車での受診を前提とした立地条件で作られているためか。現在のガソリン不足の中では、受診したくても受診できない妊婦が多数いると思われる。

16時過ぎから医局会。震災に関連した申し送りあり。応援医師に関連して、「3月までは無給であるが、4月以後は一日5万円支払いたい」とのこと。日

産婦からの派遣の場合どうするか、日産婦学会との間で話し合いが必要と思われる。石巻赤十字病院は約 400 床であるが、夜間も毎日 200 人救急外来を受診している。その多くが肺炎と胃腸炎。毎日 40 人入院し、急性期の加療をして、毎日 40 人ヘリコプター等で他病院に搬送している。産婦人科以外は皆通常診療を止めて、被災地の肺炎、胃腸炎治療を続けている。産婦人科は婦人科を止めて、産科のみの診療としている。産婦人科の応援として診療していると、案外、被災地の全体像はわかりづらい。石巻赤十字病院が通常診療に戻るのはまだまだ先であろう。

17 時過ぎに松村、濱西でホテルへのタクシーに乗る。タクシー代として現金をたくさん用意しなければならないことへの対策として、日産婦から、カードを使ってほしいと連絡あり。しかし石巻のタクシー会社はどれもカードが使えないとのこと。今回はやはり現金で払う。8750 円。たくさん現金を持ってきたが、さすがに残り少なくなってきた。なお、松島、石巻地区でカードの使えるタクシー会社は松島ワカバ第一交通のみ。ホテルではカレーライス+サラダ+スープ。今夜はホテルも満室とのこと。濱西は食事、風呂の後、ホテルのロビーでメールチェック。インターネット接続を LAN に頼る場合、ホテルのロビーにいる時しかチャンスがない。濱西はタクシーを呼んで病院に戻る。松村はそのままホテルで宿泊。ホテルの部屋は禁煙ではなく、宿泊するとなるとタバコ臭さがやや気になる。

3/29(火)

朝 7 時起床。少しだるくてのどが痛い。風邪をひいたか？なお、インフルエンザワクチン接種済みで、さらに 3/26(土)の夜からタミフルを 1 日 1 錠ずつ服用し続けており、インフルエンザへの備えはしているつもり。出かける準備をしてロビーへ。7 時半朝食を運んでくれる。味噌を中に入れたおにぎり、みそ汁、サラダ、目玉焼き。7 時 50 分頃、松島ワカバ第一交通のタクシーを呼んでもらう。松島海岸 IC から乗ると IC は近いが、ちょっと逆方向に走ることになって高くなるので、45 号線を少し走って、松島北 IC から乗ることにする。この区間の地道は特に渋滞なし。ガソリンを入れるための長い行列がやはりある。松島北 IC から三陸自動車道に乗った。しばらく走ると、ひどい渋滞につかまる。8 時 30 分頃に病院に到着するつもりであったが間に合わない。携帯で濱西に連絡し、遅れることを伝えてもらう。公共交通機関の復旧が遅れることで

渋滞の問題が生じているのであろうか？石巻河南 IC でおりて、病院に向かう。その途中でまたガソリン待ちの渋滞あり。しかも「本日はここまでで終了」という立て看板を持った店員が車の列の真ん中に立っている。その看板の後の車は今日のところはじりじりとガソリンスタンドに近づくようにして、明日以後にガソリンを入れるつもりであろう。そんなガソリン状況なのに自家用車がたくさん走っていて渋滞を生じている。ガソリン待ちの列も渋滞の一因か？タクシーの運転手が何度も咳き込んでいた。この地域は誰もが風邪をひいている。8時50分過ぎ、病院に到着。1時間あまりかかった。運賃 7780 円(高速代 200 円込み)。カードで支払ったが、エンボスで押す、原始的な器械を使った。

昨夜は分娩 2 件、さらに胃腸炎の妊婦が救急で受診。昨夜当直の小林先生は日中休んでもらう。今日も長谷川先生は休み。ゆっくり休んで元気になってほしい。外来は堀口先生と濱西。医師は余っているが、外来が 2 診だけなので、松村は昼に濱西および堀口先生と交替するための人員として待機。午前中にどっと 50 人くらい来院。やはり石巻赤十字病院以外でかかっていた妊婦が多い。お昼を交替で取る。松村はカップラーメン、みかん、コーヒー。午後になると妊婦の数がぐっと減り、暇になった。

日勤帯に分娩一件有り。その後、ATOM メディカルの方が 4 名で来院。千坂先生から連絡して頂いたようである。分娩台の修理をしてもらう。LDR1 の分娩台はレール自体が歪んでいて、一応動くようにはしたが、ぎしぎしと音を立てる状態。また負荷をかけると補助台が脱輪して落ちるので、負荷をかけないようにしてほしい、とのこと。LDR2 の分娩台はレールなどに問題なし。修理して動くようになったし、部品の交換も必要ない。ただし、この種類の分娩台はともかく補助台に負荷をかけないで欲しい、とのこと。また、LDR1 の分娩台については、新型の分娩台を早ければ 4/1(金)に持ってきて交換してくれる、と。これまでの分娩台は補助台のトラブルが頻発するため、この新型の分娩台は、補助台に負荷をかけても大丈夫なように作ってあるとのこと。「価格は後で交渉させて頂くが、お安くしておきたい」などと言っていたが、「普通この状況では復興支援ということで無料とすべきだ」と言っておいた。さらに、ATOM メディカルの担当者の名刺をもらい、携帯電話の番号も書いてもらい、詰め所の前の窓に貼付けた。仙台にいるため 1 時間半かかるが、分娩台の不具合があれば、夜間でも呼び出し可能とのこと。無理矢理そう言わせた感はある。携帯電話を必ず枕元においておくように言っておいた。これで分娩台の問題は解決。

石巻赤十字病院の助産師が松村の ATOM メディカルへの交渉の様子をみて驚いていたが、東北の人々にとって、関西人の交渉はクレーマー気味かも。

夕方 5 時の時点で未分娩 3 名。一人は破水後 36 時間経過しており、アトニン点滴で陣痛促進中。松村がファーストコールであるが、小林先生が院内に残ってくれて、松村、濱西はホテルにどうぞと言って頂いた。松島ワカバ第一交通に電話したところ、石巻赤十字病院に到着まで 40 分程度かかるとのこと。小林先生に、松村が戻ってくるのは 21 時頃になることを伝え、18 時まで待つ。ホテルまでタクシーで移動したが、仙台に行く自衛隊の車などで三陸道は大渋滞していた。タクシーの運転手が、渋滞しない抜け道を知っているとのこと、そちらに行ってもらおう。確かに車は走っていないが、狭い山道を通り車酔いした。メーターが 7220 円になった時点で、タクシーの運転手が「これ以上は頂きません。スムーズに行けばこのくらいの値段のはずです」と言って、メーターを止めた。その後しばらくして松島 IC の近くに出たので、おそらく 2000 円分はメーターを止めていたと思われる。ホテルに到着したのは 19 時 10 分頃。カードで支払ったが、運転手さんは今までで一回くらいしかカードでの支払いを受けた事がないとのこと、器械の使い方に四苦八苦しており手伝った。

ホテルに到着してすぐに食事。帆立と鮭のフライ、サラダ、みそ汁、ご飯。朝食用のおにぎりももらい風呂へ。今日も満室とのことであるが、風呂は案内待たずに入れる。ホテルの中で余震あり。震度 3。その後タクシーを呼んで病院へ。高速代 200 円込みで 7240 円。この時間の石巻への方向は渋滞なく、30 分余りで到着。しかし、松島までの往復も毎日だと結構疲れる。病院の入り口の自動販売機がすべて売り切れではなく、コカコーラ社の自動販売機は 7 割くらい残っている飲み物がある。ここの自動販売機の飲み物が残っているのは初めて見た。3 階の産婦人科病棟奥の自動販売機は 3/26 に来た時から使えたが、それもコカコーラ社の自動販売機。コカコーラ社は震災後も定期的に院内の自動販売機に補充しているようである。病院内に入ると今日は昨日までよりも、待合室で点滴を受けている患者が多い。高齢者がほとんど。やはり肺炎と胃腸炎が大多数なのであろう。病棟に行くと、破水後陣痛促進していた妊婦は分娩となっていた。小林先生おつかれさま。あと 2 人、分娩進行している妊婦がいる。今日は松村が外来で寝てファーストコール、小林先生が家族控え室で寝てセカンドコール。これまで外来で寝る時は泌尿器科外来の隣の処置室を使っていたが、昨日から産科外来奥の NST 室で寝ている。この部屋は夜中寒いので要注意。

500ml 入りのペットボトルの水を自販機で買って飲んだ。130 円。

松島のホテルがあまりに遠く、お金がかかることから、石巻で営業しているホテルを探してみた。ホテルルートイン石巻は新しい立派な高層の建物で、石巻赤十字病院から車で5分程度のところにある。震災後も 3/23 から営業再開しており、電気、水道あり、風呂は大浴場が使えて、朝食、夕食付き。石巻赤十字病院が職員用にいくつかの部屋を確保している。電話をしてみると、5月中旬まで予約で一杯とのこと。もう一つ石巻で開いているホテルはビジネスホテルマイルーム石巻。ここも5月中旬まで予約で一杯。今後も各分野から復興支援のために人が訪れるので、もしも日産婦が継続的に支援するならば、石巻市のホテルをおさえておく方がよいのではないか。

3/30(水)

午前1時 PHS が鳴った。LDR1 での分娩。普通に補助台が動き、縫合もやりやすい。直しておいてよかった。準夜帯で生まれた褥婦が手足がしびれるとのことで診る。過換気症候群か。経過観察でよさそう。詰め所に寄ると、分娩進行している妊婦が4人いる。

午前5時分娩で呼ばれた。また LDR1。順調な分娩。処置終了後詰め所に寄る。今の分娩中にまた入院があったため、分娩進行中の妊婦はやっぱり4人。5cm 開大している経産婦が処置室で待機しており、先ほどの分娩が経過良さそうなので、早めに LDR1 から出して、代わりにそこに入れるとのこと。結局分娩台の良い LDR2 と LDR3 が埋まっていて、新品と交換予定の LDR1 ばかりで分娩を回している。

午前6時55分分娩のために call。LDR2 とのこと。2回経産婦で全開大。早そうであるがもうちょっとかかる。待っていると LDR3 の方が早く分娩になりそうとのこと LDR3 に移動。初産婦。会陰切開して7時20分に分娩。LDR2 はセカンドコールの小林先生を呼ぶように指示。7時25分に分娩。

8時過ぎ、外来に降りて毛布を片付けて洗顔し、荷物を移動する。その途中8時30分頃、また分娩のため call。LDR1 の経産婦。患者の朝食が横に置いてあった。ごはん、いわしの味噌煮の缶詰、牛乳。缶詰が缶に入っている状態でそのまま出されている。胎盤娩出後弛緩出血あり。すぐに双手圧迫したが出血がじわじわと続く。ラクテックにパルタン M1A+アトニン O1A、続いてラクテックにパルタン M1A を点滴。被災地にしてはちょっと贅沢な使い方をする。合計

出血量 1200g。

朝 8 時 45 分のミーティングには顔を出せず。分娩が終わった後に詰め所によってシフトを確認。長谷川先生が今日も休み。昨日やっと水を飲めたか飲めないかという状況らしい。常勤医は堀口先生、芳賀先生、千坂先生の 3 人。応援医師は、松村、濱西。さらに小林先生は今日までで、日中に同じく武蔵野赤十字病院から来てくれる田中先生と交代。堀口先生、小林先生が午前の外来、松村、濱西は午前病棟、午後外来の手伝い、千坂先生、芳賀先生が病棟。夜はファーストコール濱西、セカンドコール田中先生、サードコール千坂先生。なお濱西は朝ホテルから松島ワカバ第一交通のタクシーで病院に向かったが、今朝の運転手は三陸道が渋滞するため最初から地道を選択するも、石巻のあたりで病院の場所が分からないとのことで道に迷い、到着が 9 時過ぎになったとのこと。ホテルからタクシーを呼ぶときは、石巻赤十字病院までの道順を知っている運転手を指定すべきか。朝 9 時、35 週の破水入院。朝食のおにぎりを食べて一休み。今日はもうのどが痛くない。軽い風邪ですんでよかった。

今日も午前には妊婦が集中して来院。妊娠 16 週の進行流産が来院。炎症所見高値でそのまま流産となった。お昼はカップラーメンとみかん。14 時過ぎ、田中先生が到着。院内の案内をする。持参の食料品がたくさんあり。さらに、今日帰られる小林先生も食料品を置いて行かれるとのこと。電子レンジで温めるご飯、カレー、お菓子等が大幅に増えた。次の東大グループは、食料をあまり持ってこなくてよいかもしれない。少なくとも「保存のきく非常食」は十分ある。今は冷蔵庫もあるので、果物などのビタミン源を持ってくのがよいのでは？しかし一方、街に出てコンビニに入ると、カップラーメンなどが枯渇しているため、今の食料が大量に余っている状況がとても安心で、うれしく思ってしまう感情もある。日勤帯には分娩 1 件あり。外来は午後からペースが遅くなるが、断続的に 17 時まで来院あり。

午後になって、芳賀先生が、「明日から東北大に戻る」とのこと。芳賀先生は元々石巻市の出身で、赤十字病院の近くにご実家がある。今回の津波で、子供の頃に遊んだりした場所が流されていて、とてもショックを受けているというような事を話される。またいずれ、こちらの人員が足りなくなれば、東北大学から派遣されるのは自分であろうと思うが、今回は医局の考えもあると思うし、仙台でもやらなければいけないことがあるので、仙台に帰るとのこと。昭和大学の松岡先生からの申し送り、芳賀先生は常勤になられたとばかり思

っていてびっくりしたが、実際のところは東北大学からの一時的な派遣という形であったようである。

矢野先生から連絡あり、ビジネスホテルマイルーム石巻の予約を 4/9 以後取る事ができたとのこと。4/9 以後の応援医師が、松島までの往復で苦勞しなくなるのはよかった。しかも、4/10 以後はガスが復旧するそうなので、院内のシャワーが問題なく使えるようになるであろうし、病院近傍のレストランが調理可能となって営業する店が増えるであろうから、応援医師の QOL はずいぶん良くなると思われる。その電話の際、芳賀先生が明日以後おられないことを伝えた。その後しばらくして八重樫先生から直接連絡あり。芳賀先生の現在の身分は東北大学の助教であり、石巻赤十字病院の定員は常勤 3 名ということになっていて、今回は一時的に手伝いに行っていた状況である。また東北大学は他の地域も支援しなければならず、芳賀先生が大学に戻るには医局としてやむを得ない事情があるとのこと。また、八重樫先生から、石巻赤十字病院の人事の流れに関する事柄をお聞きし、いろいろな疑問が氷解した。ともかく今おられる常勤の先生方は皆、誠実に黙々と働くタイプの方々であることが分かり、これが東北人というものかと思う。今回、石巻赤十字病院で働いて、常勤の先生方のお考えが分からないという悩みが多少あった。私などは、仕事の方針について合理的な説明がなされて、共通の目標に向かうという状況にならないと、すぐに働くのが嫌になってしまうし、自分がそうであるから、下の人に対しても事あるごとに説明をしようとする。しかし東北人の場合、まず説明ありきではなく、不合理な状況にもある程度耐えて、黙々と仕事をしてしまうところがあるのかもしれない。それは長所にもなるが、他人への説明不足と関連するのかもしれない。他の地方からこられる応援医師の方々はどうのように感じられるだろうか？

石巻の地域全体で年間 1500 分娩あり、近日中に分娩を再開できそうなのが、あベクリニックのみとのことなので、1 年間は年間 1200 分娩以上と考えるべきであろう。その場合、昨夜のような一晩で 5 件の分娩というようなことも起こりうる。常勤 3 名であるが、堀口先生は健康上の理由もあって、無理はできない。差し当たって、日産婦からの 2 名の応援は欠かせないであろう。それでは常勤医を 2 名増やすとどうなるか？周りの産婦人科医院が再度開業した場合、1 年後にはまた分娩数が元の年間 500 に減ってしまうかもしれず、その時には一度増やした常勤医を減らすべきになってしまう。一方、今後日赤病院の分娩

数が減らず、妊婦を抱え込む結果となれば、再開した開業医の経営を圧迫してしまう。今日、昼間に斉藤産婦人科医院の斉藤先生が「手伝いに来ました」とのことで来院された。来られることは聞いていなかったのが驚いたが、先週も来られて実際にちょっと手伝っていかれたとのこと。今日はすぐに帰られたようである。斉藤産婦人科は他の多くの産婦人科と同じく水没して分娩再開の目処が立っていないが、外来だけは医師会館を借りて、そこにエコーを持ち込んで、妊婦検診を再開するプランを立てているとのこと。その他にも、外来だけは何とかできるクリニックはあるらしい。それらの外来を受診している妊婦の分娩は石巻赤十字病院になるが、開業の先生方もオープンシステムで石巻赤十字病院に分娩を取りにきてもらえれば、常勤医師の負担軽減につながる。しかも、その開業の先生方がクリニックを再開されるようになれば、元の形へと復旧できる。斉藤先生のお元気そうなお顔を拝見して、そのようなことを考えた。一方、今日の堀口先生の外来では、セミオープンシステムということで、一定の週数の妊婦検診だけは何とか外来ができるクリニックへ行って頂くよう説明しておられた。そうやって、石巻赤十字病院に負担が集中しすぎないような対策を一つ一つすべき状況である。

17 時過ぎに芳賀先生と小林先生にお別れをした。芳賀先生は 3/13 から 3/30 までおられたので、一番大変な時期に奮闘されたことになる。こちらが常勤と勝手に勘違いしていたが、応援医師として長期間頑張られた。芳賀先生は口達者な方ではなく、自己主張をあまりされないが、しばらく接すると誠実さが伝わってきて、私が考える典型的な東北人のように思う。小林先生は武蔵野赤十字病院から率先して来られて 3/23 から 3/30 まで働いておられた。松島のホテルで 1 泊された以外は、ずっと病院内で寝泊まりしておられた。とても行動力のある女性である。お二人ともおつかれさまです。こうやって、石巻でお知り合いになれてよかった。18 時に妊娠 11 週妊婦が出血で救急受診。田中先生にオーダリング方法を申し送りしつつ濱西が対応。

18 時 40 分頃、松島ワカバ第一交通のタクシーを呼んで松村、濱西はホテルへ。高速は渋滞のため地道を選択したが、ルートを選択がよいのか、スムーズに着いた。運賃は 7600 円。夕食はおでん、ソーセージ、ごはん。今日は風呂がちょっと混んでいて少しロビーで待った。風呂の後、濱西は病院へ。

3/31(木)

朝 7 時 10 分起床。熟睡した。途中でホテルでの宿泊を入れることによって、疲れの蓄積がなくなる。7 時 30 分に朝食。味噌を中に入れたおにぎり、サラダ、みそ汁、漬け物。松島ワカバ第一交通のタクシーを呼んで石巻赤十字病院へ。今朝は昨夜と同じ運転手（赤間さん）。今朝もルート選択がよいのか、とてもスムーズ。タクシーの中、携帯電話で東北大学の高野先生と久しぶりにお話しした。高野先生のおっしゃるには、東北大学の中でよくしゃべる人は八重樫教授と高野先生くらいで、後は皆黙々と仕事をする人たちとのこと。震災直後には、常勤の先生方は、「3 人で何とかする。支援はいらない。」とおっしゃっていたそうであるが、高野先生が石巻赤十字病院に入ったところ、1 日 5 件のペースでどんどん分娩があり、とても現在の人員ではこなせるようには思えないので、東北大学がイニシアチブを取り、日産婦にかけあって支援をするようになったとのこと。今日のはじめて 8 時 30 分より前に病院に到着した。

昨夜は分娩が 2 件あったとのこと。今朝は長谷川先生が復帰。千坂先生が「今日はまだ来なくてよい」とメールを打っていたら、すでに来てしまっていたとのこと。長谷川先生も一見、若くてかわいらしい女医さんであるが、まわりに不満を訴えずに体調を崩すまで仕事を続けてしまうところを見ると、間違いなく東北人である。これからは無理をさせてはいけない。妊娠 32 週 PIH 患者の NST で、late deceleration が出て、variability が減っており、今朝の緊急 C/S 予定となる。さらに、午後に既往 C/S にて C/S を一件予定している。ミーティングで本日のシフトを決める。常勤が堀口先生、千坂先生、長谷川先生、応援医師が田中先生、松村、濱西。外来が堀口先生と松村。途中交替要員として濱西。午前の C/S は千坂先生と長谷川先生。午後の C/S は長谷川先生と田中先生。千坂先生はたくさん事務仕事があるとのこと。石巻の北の方にも家が点在しているが、その妊婦は全く検診を受けることはできておらず、ボランティアで医療支援を行っている人たちがイスラエルの医療団と一緒に往診し、女川町の妊婦 7 人の情報を持ってきてくれたとのこと。さらに北の南三陸町まで行くと、もっと妊婦がいるはずであるが、現在のところ全く情報が分からない。しかしこれからその人たちが見に行ってくれるとのこと。この広い範囲で妊婦が路頭に迷っているはずなので、その妊娠管理を行う体制作りが今後の大きな課題になりそうである。石巻赤十字病院産婦人科は、そこでもある程度イニシアチブを取っていかざるを得ない。このように、様々な方面から支援の申し出と応援の依頼があり、その調整がかなり大変なようである。

石巻赤十字病院の外来は、妊婦の年齢層がとても若く、しかも経産婦が多いことが特徴である。京大病院よりも間違いなく平均 10 歳は若い。日本全国このようであれば、出生率は高くなるのだが。普通に検診をして胎児のエコーを見せて、元気に育っていることを言ったら、うれし泣きする妊婦がいた。よっぽど心配だったのだろう。妊娠 41 週の陣発入院あり。お昼にいったん外来が途切れたため昼食とする。パンとカップ焼きそば。自販機で水を買う。130 円。3 階病棟にあるコカコーラ社の自販機は、売り切れのジュースがほとんどなくなっている。昨日十分に補充されたのだろう。隣の KIRIN の自販機も半分くらい売っている。こちらもやっと補充され始めたか。午後は人数が減るが、ぽつぽつと断続的に来院。20 歳の妊娠 28 週経産婦を切迫早産で入院とする。

16 時から医局会。来週から通常の外来を再開すると伝達があり。医局会の最中余震あり。震度 4 程度。司会の先生は揺れている間も無視して会議を進行させ、出席者も誰も気にしない。17 時 30 分頃に松村、濱西はタクシーでホテルへ。途中 18 時 10 分頃、松島でコンビニに寄り、シャンプーを購入。310 円。18 時まで営業と貼ってあるが、入れてくれた。店内には菓子、カップラーメン、おにぎりなどがちょっと残っていた。飲み物は結構ある。店員さんに聞くと、きわめて不十分であるが、ちょっとずつ仕入れ状況は改善しつつあるとのこと。石巻よりはましなのかもしれない。18 時 20 分ホテルに到着。運賃 7500 円。

18 時 30 分より夕食。今日はハンバーグ、ごはん、コンソメスープ、ポテトサラダ。結構おいしかった。食後、帰りの飛行機である 4/2(土)19 時、山形から大阪伊丹空港までの飛行機の予約を取る。3/19 に申し込んだ時点では予約が取れず、オープンチケットとなっていた。幸い 2 席空いている。やり方が分からず 20 分ほど悪戦苦闘していたが、最終的に JAL の website をよく見てその指示に従い予約完了。やり方が分かったところで濱西に教えて予約を手伝ったが、タッチの差で予約できず彼の方はキャンセル待ちとなってしまった。オープンチケットの予約確定はもっと早くに出来るようなので、これまでにやっておけばよかった。今後の応援医師には、帰りの交通手段をできるだけ早くに予約しておくことをお勧めしたい。ホテルには「家族風呂」と「五右衛門風呂」があり、どちらか空いている方に入る。ロビーでちょっと待っていると、五右衛門風呂が空いたので入った。明日松村はファーストコールの当直なので、もうこのホテルには来ない。明日の朝食のおにぎりを受け取り、荷物をまとめて、ホテルの人に挨拶した。「次はこんな時ではなく観光で来て下さい」とのこと。ま

たいつか、美しい松島を見に来て、このホテル本来のおいしい食事を食べにきたい。女将がとても丁寧に、外まで見送りに来てくれた。松島ワカバ第一交通のタクシーに乗って病院へ。スムーズに到着する。運賃 7240 円。カード払いのための器械を運転手さんが探すが、その車には積んでいなかった。やむなく現金で支払う。

詰め所に寄ると分娩進行者は日中入院した 41 週の陣発のみ。患者さんや家族の目に最も触れる 1 階出入り口近くの自販機も、コカコーラ社のものは補充され、ほとんど売り切れがない。ジュースを買って飲む。120 円。今日は松村が外来 NST 室で寝る。この部屋は大きな窓から冷気が入ってきて、明け方はとても寒くなるので防寒対策が重要。手術着の下にシャツと長袖のトレーナーを着て、暖房を 22 度に設定して寝る。この部屋のベッドは寝心地がよい。

4/1(金)

朝 4 時 30 分頃、寒くて目が覚めた。毛布はちょっと寝返りをすると隙間から冷気が入ってくる。防寒対策をしたつもりであったが、朝方の冷気の侵入には勝てなかった。泌尿器科外来奥の処置室に移動。ベッドが堅くて狭いがこの時間はこちらの方が寝やすい。朝 7 時起床。セカンドコールは呼ばれず。洗顔して昨夜ホテルでもらった朝食をいただく。明太子が中に入ったおにぎりと仙台ナスの漬け物。持参してきたみかんゼリー、栄養ドリンク。掃除のおばさんたちが入って来て、「あらっ」と驚かれる。しかし態度の端々に、「支援にきてもらってありがたい」という感謝の気持ちが感じられる。外来を引き払って家族控え室へ。ファーストコールの田中先生は、昨夜分娩 2 件、救急外来 3 件。全然寝られなかったとのこと。午前中は休んで頂く。

朝 8 時 45 分にミーティング。常勤医師は堀口先生、千坂先生、長谷川先生。応援医師が松村、濱西と、田中先生。外来は堀口先生と松村。病棟は千坂先生。濱西は病棟と外来の応援。長谷川先生は昨日入院の 28 週切迫早産を仙台市に搬送してくるとのこと。基本的に石巻赤十字病院小児科では 30 週以後 OK。28 週の患者の経過が不良で、早期に分娩となった場合はもちろんダメであるし、経過が良好で、長期間妊娠継続できた場合もずっと病床を埋めてしまうことになってよくない。よく考えてみると、被災地の病院としては搬送が正解である。現在は、分娩数の増加によって満床にならないように、経膈分娩後は 3 日、帝王切開後は 4 日で退院として、何とか空き病床を確保している。

濱西の帰りの飛行機は、昨夜の時点ではキャンセル待ちでもチケットが取れず。朝になってホテルのロビーでインターネットをつなぎ、もう一度チャレンジしたところ、山形発 19 時の便で 2 席があいていて、そのうち 1 席を予約できたとのこと。どうやら、毎日 2 席ずつ空けるシステムらしい。

朝から外来。妊婦検診をこなす。今日も風邪や胃腸炎の妊婦が多い。昼頃に濱西と交替。お昼はパンとカップラーメン、コーヒーとチョコレート。田中先生とお話した。田中先生は H9 年卒で、医局からは離れており、手術を探求する求道者のような経歴。子宮頸癌の治療について、話が盛り上がった。午後、東北大学の八重樫教授が来られる。定期的にこの地区を巡回し、開業医の様子を見て回っているとのこと。地域の産科医療の復興への道筋を話し合う。あべクリニックは津波が押し寄せて、1 階が水に浸かったが、主立った医療機器が 2 階にあるため無事であった。院内の掃除が終わって、今日から外来を再開できている、そのうちに分娩を再開できるとのこと。もう 1 件、斉藤産婦人科医院は、建物は無事であるが、医療機器が 1 階にあるために全部やられてしまっており、分娩再開にはかなり時間がかかる。海沿いにあった 2 件の産婦人科医院は建物が吹き飛んでしまっており、何もかもなくなっており、廃業となるかも。幸いこの地域の産婦人科開業医は皆、命は無事であった。しかし人的被害はやはり出ており、看護師が亡くなったところもある。

午後の外来は妊婦がぽつぽつと来るだけになった。そこへ 20 歳腹痛の女性が救急を受診。CT を撮影して、卵巣の皮様嚢腫の茎捻転と診断。産婦人科へ紹介。緊急手術とする。患者の家族を呼ぶと、今港の方において、来院に 1 時間はかかるとのこと。ガソリン不足もあって、人の移動は容易ではない。堀口先生と田中先生で手術予定。41 週初産婦の分娩が進行中。児心音が何度か低下。臍帯圧迫によるものと思われるが状況を正確に把握したい。カラードップラーの使えるエコーが外来の 1 診にしかないので、患者を外来に連れてきて検査。羊水がほとんどなく、臍帯が体幹と子宮の間に挟まれている。ゆっくりとアトニンで陣痛促進してみても、児心音が頻回に落ちるようならば帝王切開の方針とする。そうこうしているうちに、午前陣発入院としていた経産婦の分娩 1 件あり。15 時過ぎ、茎捻転の手術を出そうとしていた矢先、陣痛促進の 41 週が頻りに心音低下。千坂先生と濱西で緊急 C/S の方針。松村は外来。17 時まで断続的に受診があった。外来看護師と会うのはこれで最後であるが、「また秋頃おいしい海の幸を食べに来て下さい」と。その頃この地域の復興状況はどうなっているだろう

うか？また、石巻赤十字病院産婦人科への応援体制はどうなっているだろう？今日は応援医師 3 人いるからストレスなく診療できたが、常勤医師 3 人だけでは絶対に無理であったであろう。現在、石巻赤十字病院で働いている赤十字派遣チームは第 4 班であり、東京からの運搬バスには看護師・助産師が 24 名乗っていたが、そのうち 10 名が助産師であったとのこと。将来、地域の産婦人科医療が復興するにつれ、石巻赤十字病院の分娩数が減って、支援は減らせるはずであるが、しばらくは産婦人科医師による支援も続けていかざるを得ない。

今夜は松村がファーストコールで家族控え室。濱西がセカンドコールで外来で寝る。千坂先生とは今夜でお別れ。震災以後、応援医師を受け入れ、石巻赤十字病院の産婦人科診療をしっかりと支え続けてこられ、さらに石巻市およびその近隣市町村の産科医療を支えてこられた。今後この地区の産婦人科医療の整備は、千坂先生の働きなしには不可能であろう。お体に気をつけてがんばって欲しい。濱西は田中先生と一緒にホテルへ。松村は夕食を病院で食べる。ちりめん山椒を乗せたごはん、おでん、豚汁、デザートにはむき甘栗。医局の電子レンジでごはんとおでんを温めた。食後シャワーに行く。シャワーのお湯は午前しか出ないと聞いていた。小林先生は水シャワーを浴びて、修行僧になった気分だったとのこと。夕方に温水シャワーを浴びたければ、熊本赤十字が持って来た設置式のシャワーに行くしかないが、それは地下の搬入口の外にあるため、シャワーは温水でもその後の移動が寒い。水シャワーを覚悟して医局の近くの男子更衣室の中にあるシャワー室に行ったところ、驚いたことにお湯が出た。後で聞くと、この 2 日ほどは夕方にもお湯がでるようにはなっているが、職員がシャワーでお湯を使うのは午前だけにしよう通達が出ているらしく、まだ自由にお湯を使ってよいという訳ではないらしい。

今夜も石巻市には震度 3 の地震があった。分娩進行者は 1 人。自販機で 500ml の水を買って飲んで寝る。130 円。

4/2(土)

午前 3 時 PHS が鳴る。分娩室に入ると、部屋を暗くして側臥位で分娩をしている。35 歳初産婦。京大病院では「高齢初産婦」という括り方にはあまり意味がなく、単に majority の側を指しているが、この地方では未だに high risk 群を意味している。児心音良好。兵庫、東京、高知からの赤十字の応援助産師 3 名。側臥位分娩は足を持つ人が必要で、さらに急墜分娩に切り替えるタイミン

グを逃さないように児心音を拾い続ける必要があるが、助産師のチームワークが良い。呼ばれてから 10 分後、しっかりと会陰を伸ばし、会陰切開せずに分娩となる。裂傷は小さい。若い産婦ならば裂傷はなかったであろう。助産師も各病院のエース級が投入されているのか、分娩取り扱いが上手で医師への報告も良い。しかしこちらも「Naht の松村」と言われた男である。どこに傷があったか分からないくらいにきれいに縫ってやろう。処置終了後、ばさっと脱ぎ捨てておいた白衣がきれいにたたんで置いてあった。

午前 7 時、自販機でカフェオーレを買う。120 円。クリーム玄米ブラン、チーズかまぼこを食べる。9 時 30 分よりミーティングで今日のシフトを決める。田中先生は外来、長谷川先生は病棟。松村、濱西は病棟を手伝いつつ、帰り支度。通常の外来が始まることがほぼ周知され、今日の外来は救急外来のみ 3 人ほど。分娩進行者はおらず。珍しく時間が空いた。

昨日から石巻市のスーパーが開いて、肉、野菜、卵などが買えるようになり、堀口先生は買い出しに行かれるとのことで堀口先生とはお別れ。堀口先生は石巻赤十字病院の部長として 20 年間この地域を支えてこられた。一見、飄々とした方であるが、震災後は院内のお仕事に加え、「この地域全体のことを把握し、支えたい」ということで、率先して避難所などへの往診に行っておられる。以前にご病気をされていて、無理ができないお体であり、看護師が「今倒れられたら本当に困るので、体を大事にして欲しい」と言っていた。くれぐれもご自愛ください。

お昼前に長谷川先生とゆっくりお話した。地震の時、長谷川先生は子宮脱の患者のペッサリーを交換していた。地震の直後、外来診療を止めて患者さんに帰って頂くよう放送があった。その後津波となって、すべての通信がマヒした。携帯電話、固定電話、インターネットすべて院外とつながらず。外からの情報はテレビで得た。津波で大変な状況になっていそうであることは分かるのであるが、具体的に石巻がどうなったのかは、時折ヘリコプターから石巻を撮影した映像が流れた時に、その映像を通してのみ知ることができた。救急車がほとんど津波で流されたためか、その日はぼつぼつとしか被災者が搬送されて来なかった。そしてその患者から聞く情報は、町には溺死体がたくさん水に浮かんでいるという、とても恐ろしいものであった。産婦人科も含め、すべての医師が搬送された救急患者を診ることになった。翌日の朝からは大変で、20~30 人単位で低体温症の患者がどんどんと運び込まれて来て、最初は簡易ベッドに寝

かせていたがすぐに足りなくなり、床にビニールシートを敷いて、患者をびっしりと寝かせて毛布を配布して治療した。日赤の応援部隊の行動は早く、震災当日の夜には東京を出発していたとのこと。道が崩れており新潟を回って来たため15時間もかかったらしい。しかし翌日には合流して一緒に患者の治療に当たっていた。最初の5日くらいは長谷川先生も本当に死ぬかと思うくらい忙しかったとのこと。その最初の週に東北大学産婦人科のチームが応援に乗り込んだ。治療が終わってからも帰る場所も手段もない患者が多く、病院には患者が増えていったが、1週間くらいしてからようやくバスで避難所にどんどん患者を運べるようになり、病院内が落ち着きを取り戻して行った。そして、その後、院内では肺炎と胃腸炎の救急患者が増えていき、産婦人科は分娩数が増えたままになった。2週目は昭和大学と武蔵野赤十字病院のチーム、3週目には京都大学と武蔵野赤十字病院のチームが応援に入り、応援医師だけで毎日当直をした。当初は常勤の千坂先生も明らかに疲れがたまっている様子だったが、応援医師のおかげで休むことができ、3週目くらいから徐々に元気になってこられたとのこと。3週目には長谷川先生が胃腸炎で3日間休まれたが、応援医師が手伝って乗り切った。武蔵野赤十字病院からの支援は4/4(月)までである。常勤の先生方は元気を取り戻されつつあるが、分娩数の増加は構造的な問題でありしばらく続くため、日産婦による支援が必要であろう。

石巻赤十字病院全体でみると、常勤の先生方の中には、異動を予定していた矢先に震災となり、異動が **pending** となっている方が多くおられるようである。皆さん、しばらくは石巻で踏ん張って頂く必要があるのかもしれないが、一定期間ごとに人を入れ替えていき、**fresh** な力を投入していくことが、燃え尽きないようにするためには重要かもしれない。例え他からの応援があっても、今の緊張感を保ちながら、自分の生活を犠牲にして働き続けるのは精神的な負担が大きいと思う。

今日で長谷川先生、田中先生とはお別れとなる。長谷川先生はとてもよく働く明るい女医さんである。結婚されたばかりで、ご主人が横浜で勤務されており、長谷川先生もそのうちに横浜に異動の予定であるが、しばらくは石巻で踏ん張って働かれる。あまり無理をなさらないように。田中先生は小林先生と同じく、武蔵野赤十字病院から率先して来られて、フットワーク軽く走り回って下さった。次の東大チームへの引き継ぎをよろしくお願いします。

松村、濱西は13時過ぎに石巻赤十字病院をタクシーで出発。今日はよく晴れ

て暖かい。病院の出口でタクシーが見えなくなるまで長谷川先生と田中先生が手を振って見送ってくれた。高速道を使って仙台駅に到着。運賃 14000 円。仙台ではエスパルという大きなデパートが昨日から再開しており、とてもにぎわっている。地下のレストラン街に入った。おいしそうなお店がたくさんあって、どこに入るか迷う。青葉亭で 2 人とも牛たんを食べる。980 円。バスで山形駅へ。すでに回数券を買ってある。乗車率は 4 割程度。山形駅から山形空港ライナーで山形空港へ。バスの中はがらがらで我々含めて 3 人しか乗っていない。運賃 1200 円。山形空港には早めに着いた。19 時発の大阪伊丹空港行きの JAL2238 便に乗る。同じ飛行機に神戸市長が乗っておられた。震災関連の視察だろうか？搭乗率は 6 割程度。なぜあんなに予約を取るのに苦労したんだろう？大阪伊丹空港から 21 時発京都駅行きのリムジンバスに乗る。運賃 1280 円。京都駅から地下鉄で国際会館駅。280 円。駅を出たら嫁が車で迎えに来てくれた。

終わりに

東日本大震災の被災地に対し、自分に出来る範囲で何か支援をしたいと思っていた矢先、日本産婦人科学会からの応援依頼があって、このたび石巻赤十字病院に行かせて頂いた。病院内は全国の日赤から集まった職員の「支援してあげたい」という強い思いと、「支援してもらってありがたい」という石巻の職員の人々の素直な気持ちが混ざり合い、とても良い雰囲気であった。産婦人科外来では、ガソリンがなくて来院は容易ではないはずなのに妊婦さんが検診にたくさん訪れてくれて、我々初対面の応援医師がシステムに慣れないためにもたもたしても、決して嫌な顔を見せずに全幅の信頼をおいて診察を受けてくれた。濡れてがさがさとなり、文字が滲んだ母子手帳を出して検診にやってくる人や、「自宅は流されました」と恥ずかしそうに言いつつ、赤ちゃんが元気であることを伝えるととても喜ぶ人など、石巻の妊婦さんたちがとてもいとおしく思われた。外来でも病棟でも産婦人科は笑顔にあふれていた。やはり妊娠出産は新しい未来への第一歩であり、津波で何もかも流されてしまった被災地にとって復興のシンボルである。

私は石巻の人たちのしゃべる東北弁がすっかり好きになってしまって、ちょっとそのしゃべり方がうつってしまった。数ヶ月後、ぜひとも石巻に戻って来て、この地域の様子をみてみたい。自分の身に降りかかった災難を耐え抜く東

北人の強靱な精神力、日本全国の支援をしたいという気持ち、そしてその支援を受け入れる被災地の人々の素直で明るい心があるので、必ずこの地域は復興すると思う。今回、この未曾有の大震災の被災地支援に来て、微力ながら産婦人科医として働き、そこの人々と交流させて頂いた経験は、自分の中では宝物となった。最後に、物心両面でご支援頂いた矢野哲先生はじめ日本産婦人科学会理事の先生方、修練医入れ替えの忙しい時期であるにもかかわらず京大病院で松村、濱西の抜けた穴をバックアップして下さった京大医局の先生方にお礼を申し上げてこの報告を終えたい。